

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 4 月 30 日 (2021.4.30)

【公開番号】特開 2020-187919 (P2020-187919A)

【公開日】令和 2 年 11 月 19 日 (2020.11.19)

【年通号数】公開・登録公報 2020-047

【出願番号】特願 2019-91644 (P2019-91644)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/52 (2006.01)

H 0 1 R 13/6581 (2011.01)

【F I】

H 0 1 R 13/52 3 0 1 H

H 0 1 R 13/52 3 0 1 E

H 0 1 R 13/6581

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 19 日 (2021.3.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

上記態様によれば、外側配置部の外周面に備えられた溝に浸入した液体の少なくとも一部は、溝を伝って鉛直方向の下方に流れた後、被覆部における挿入部側の端面を伝ってコネクタの外部に排出されやすくなる。従って、塩分を含んだ水等の液体がシールド側シール部材に至ることをより抑制できるため、当該液体に起因してシールド側シール部材の経年劣化が促進されることがより抑制される。その結果、塩分を含む液体が接触することに起因したシールド側シール部材のシール性の低下をより抑制できる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

上記態様によれば、被覆部における挿入部側の端面とケースとの間から外側配置部の外周面と被覆部の内周面との間に浸入しようとする液体の少なくとも一部は、外側配置部の外周面と被覆部の内周面との間に至る前に被覆部における挿入部側の端面に備えられた溝に浸入できる。当該溝に浸入した液体は、当該溝を伝って鉛直方向の下方に流れた後、被覆部における挿入部側の端面とケースとの間からコネクタの外部に排出されることが可能である。このように、外側配置部の外周面と被覆部の内周面との間に浸入しようとする液体の少なくとも一部は、外側配置部の外周面と被覆部の内周面との間に至る前にコネクタの外部に排出されることができ、従って、塩分を含んだ水等の液体がシールド側シール部材に至ることをより抑制できるため、当該液体に起因してシールド側シール部材の経年劣化が促進されることがより抑制される。その結果、塩分を含む液体が接触することに起因したシールド側シール部材のシール性の低下をより抑制できる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 2 】

第 2 装着溝 4 6 にはシールド側シール部材 7 1 が配置されている。本実施形態では、シールド側シール部材 7 1 はゴムリングである。シールド側シール部材 7 1 は、環状をなす本体部 7 2 と、本体部 7 2 から突出した複数の位置決め凸部 7 3 とを有する。本実施形態では、位置決め凸部 7 3 は、本体部 7 2 の延びる方向に離れた 4 箇所本体部 7 2 の幅方向の両側に突出している。本体部 7 2 と位置決め凸部 7 3 とは一体に形成されている。シールド側シール部材 7 1 は、本体部 7 2 が外側配置部 4 1 に外嵌されるように第 2 装着溝 4 6 に収容されている。そして、シールド側シール部材 7 1 は、第 2 装着溝 4 6 の底面に液密に密着している。また、シールド側シール部材 7 1 は、複数の位置決め凸部 7 3 がそれぞれ位置決め凹部 4 8 内に配置されることにより、外側配置部 4 1 に対する外側配置部 4 1 とシールド側シール部材 7 1 とが相対回転する方向の位置決めがなされている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 7 1 】

・外側配置部 4 1 の外周面が有する第 2 浸入抑制溝 4 9 の形状は上記実施形態の形状に限らない。第 2 浸入抑制溝 4 9 は、外側配置部 4 1 の外周面におけるシールド側シール部材 7 1 と挿入部 3 1 との間の部分に、外側配置部 4 1 の全周にわたって連続的に設けられたものであればよい。例えば、第 2 浸入抑制溝 4 9 は、第 2 浸入抑制溝 4 9 の延びる方向と直交する断面の形状が円弧状、多角形状等、矩形状以外の形状をなすものであってもよい。また、上記実施形態では、第 2 浸入抑制溝 4 9 は、外側配置部 4 1 の外周面上に装着凸部 4 7 a が設けられることにより外側配置部 4 1 の外周面に溝状に形成されている。しかしながら、第 2 浸入抑制溝 4 9 は、外側配置部 4 1 の外周面から内側に凹設された溝であってよい。また、第 2 浸入抑制溝 4 9 は、第 2 装着溝 4 6 より浅くてもよいし、第 2 装着溝 4 6 より深くてもよい。